

# ライフケアガーデン熱川 別館

**症例概要**      利用者:90代 男性 要介護3

病名:腰部脊柱管狭窄症、糖尿病、高血圧症、前立腺肥大症

経過:ご自宅にて過ごされていたが平成28年11月に腰痛及び両下肢痛が増悪し、入院治療を行う。何度か転院を繰り返した後、平成29年5月にライフケアガーデン熱川に入居。

高齢となり、耳も遠くなって、自室にこもる生活となっていた。ご家族の提案もあって、美術館やご自宅への外出を実施。とても楽しまれ、また次回という話も出て、生活に明るさが生まれた。

## 内 容

利用者さんは令和元年8月で90代後半となり、体力の衰えを強く感じるようになりました。耳元で話しかけられないと聞こえないほど難聴が進んでしまったため、人前に出るのを嫌がり、部屋にこもりがちになっていました。食堂に出ても、周りの方との会話もなく、話しかけても、悲観的な返事ばかりが返ってきていました。

もともと利用者さんは、著明なフランス人版画家であり浮世絵師でもあるポール・ジャクレー氏と親交があり、作品作りの手伝いなどもされていました。ポールさんは、すでに亡くなられているのですが、その方の展覧会がY美術館で開かれるという情報が娘さんよりありました。展覧会にお連れし、昔の活躍されていた頃を思い出せば、元気になってもらえるのではないかと娘さんからの提案にスタッフも賛同し、利用者さんに提案したところ、体力の衰えもあって、消極的でした。そこで、看護、介護が付き添うので、安心して行かれることを説明し、ようやく同意していただくことができました。

当日は、片道約4時間の長旅で、あいにくの天気でもあったのですが、久しぶりの遠出に、スタッフとの会話も弾みました。美術館では作品を楽しまれただけでなく、旧知の方を含め、いろいろな方との交流も図られ、また、久しぶりのY市の景色に、とても喜んでいただきました。さらに、お帰りになる途中、何年ぶりかのご自宅にも寄り、奥様ともお会いされて、娘さんも含めて久しぶりにご家族が勢ぞろいとなりました。長旅で、盛りだくさんの内容となりましたが、疲れもあまり感じられることなく、ご自宅に行かれたのは入院して以来初めてだったとのことで、「ずっと手入れをしてきた庭を、久しぶりに見ることができてうれしかった」との発言もあり、とても素晴らしい1日となりました。

また次の年にも、軽井沢で、ポール氏の展覧会があるという情報があり、「軽井沢にも行きたいね」「そのためには健康に気を付けないとね」など、娘さんとの会話もあり、目標ができました。そのポスターを部屋に貼り、見たりするなどして、スタッフや入居者さん同士での会話も生まれ、少しずつですが、生活に明るさが生まれてきています。

90代という高齢で、閉じこもりがちだった入居者さんが、ご家族とスタッフが協力することで、Y市までの遠出を実現し、少しずつ生活に明るさを取り戻した症例となりました。